



浅草・持ち込み寺

浅草は隅田の川や微高地という土地の利を活かし、商人たちが様々な商いを仕掛けることで文化を生み、江戸一の商業の中心に発展した。しかし現代の浅草は観光地化による画一化により、商いの安定は得られたがかつての自由な商業のあり方が薄れてきている。私たちは浅草の街に根付く寺社空間に商業を組み合わせることで浅草の新しい原動力である商人の仕掛けを許容する建築の提案を行う。

■許容する文化をもつ浅草

1. 常に変化し続ける商業と浅草



問屋街をはじめ、芸文化の繁栄による歓楽街の成立、繁華街、治安の悪化に伴う闇市化、映像技術先取りが生んだ映画の街といった様々な商業の様相を浅草はみせてきた。商いが常に変化を続けた結果ここは最先端の文化の発信地として可能性を持っている。

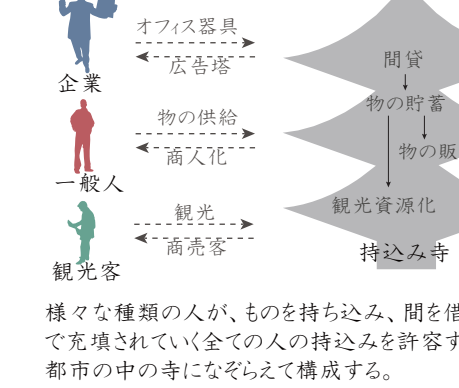
2. 土地に根ざした寺社の存在と浅草



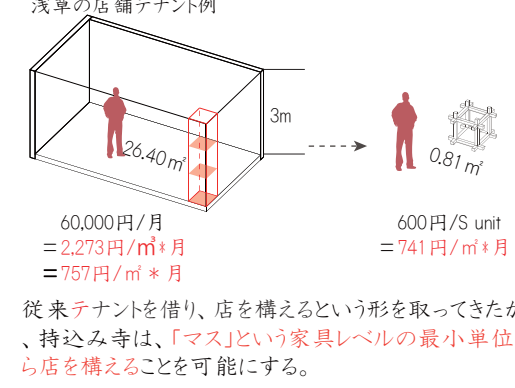
変化し続ける商いと対象に浅草には土地に根ざした多くの寺社空間が存在する。これらはまちのプラットフォームとして浅草に寄り添いながら人々を許容する公共性を持つ。この公共性を利用した現代の商業空間を提案する。

■器としての持込み寺とフラグメント化された商業

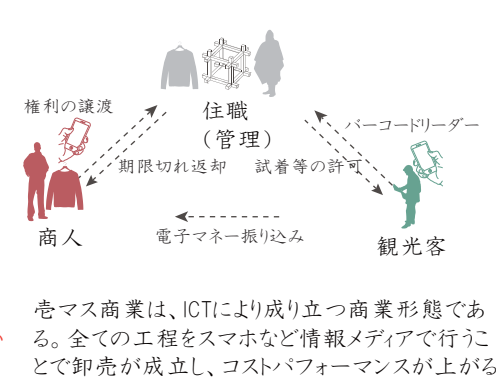
1. 持込み寺というシステム



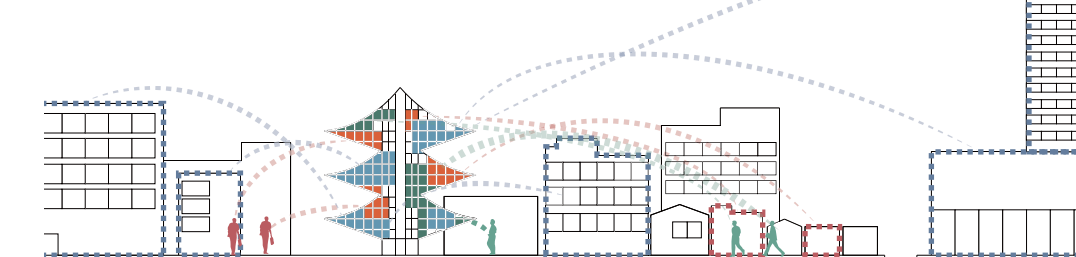
2. 器の最小単位としての“マス”



3. 老マス商業のあり方

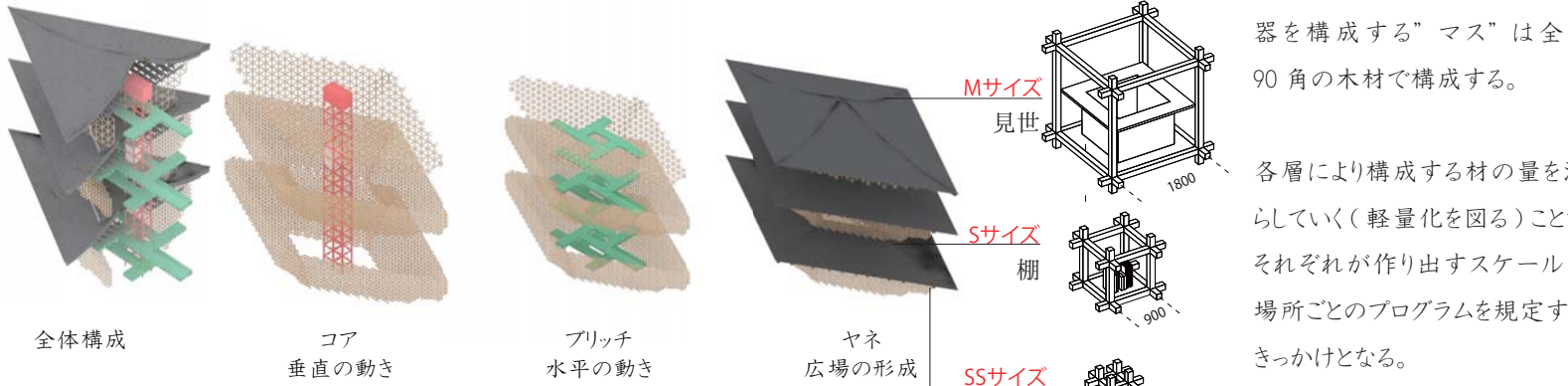


4. 持込み寺と街の関係性

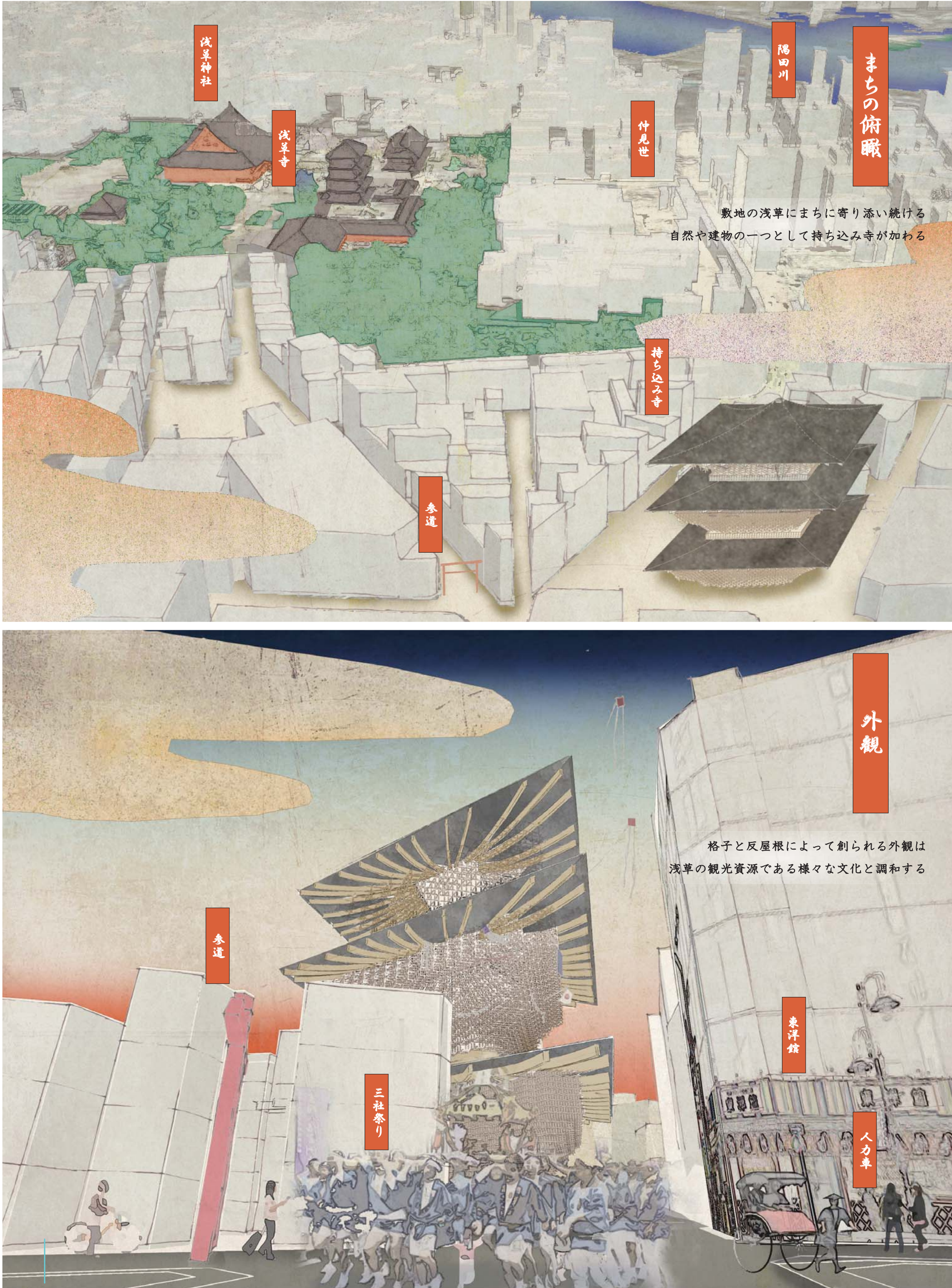
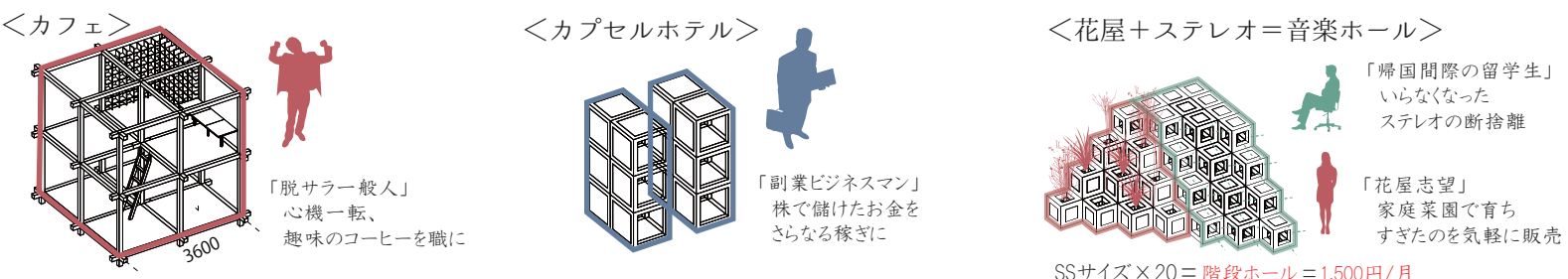


■建築を構成する仕組み

1. 器と器を支える空間装置

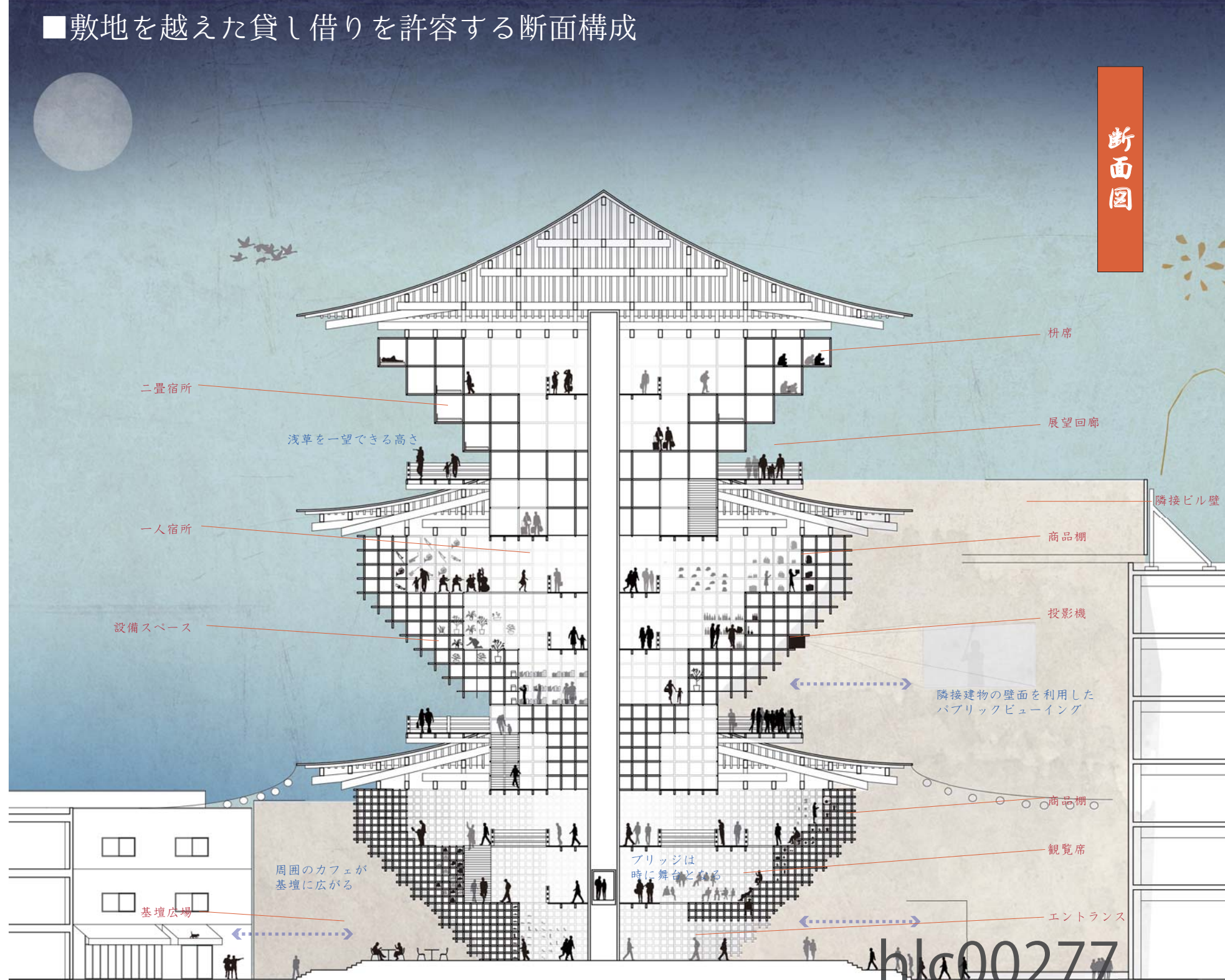


3. マスの借り方と各スケールの組み合わせによる多様性



外観

格子と反屋根によって創られる外観は浅草の観光資源である様々な文化と調和する

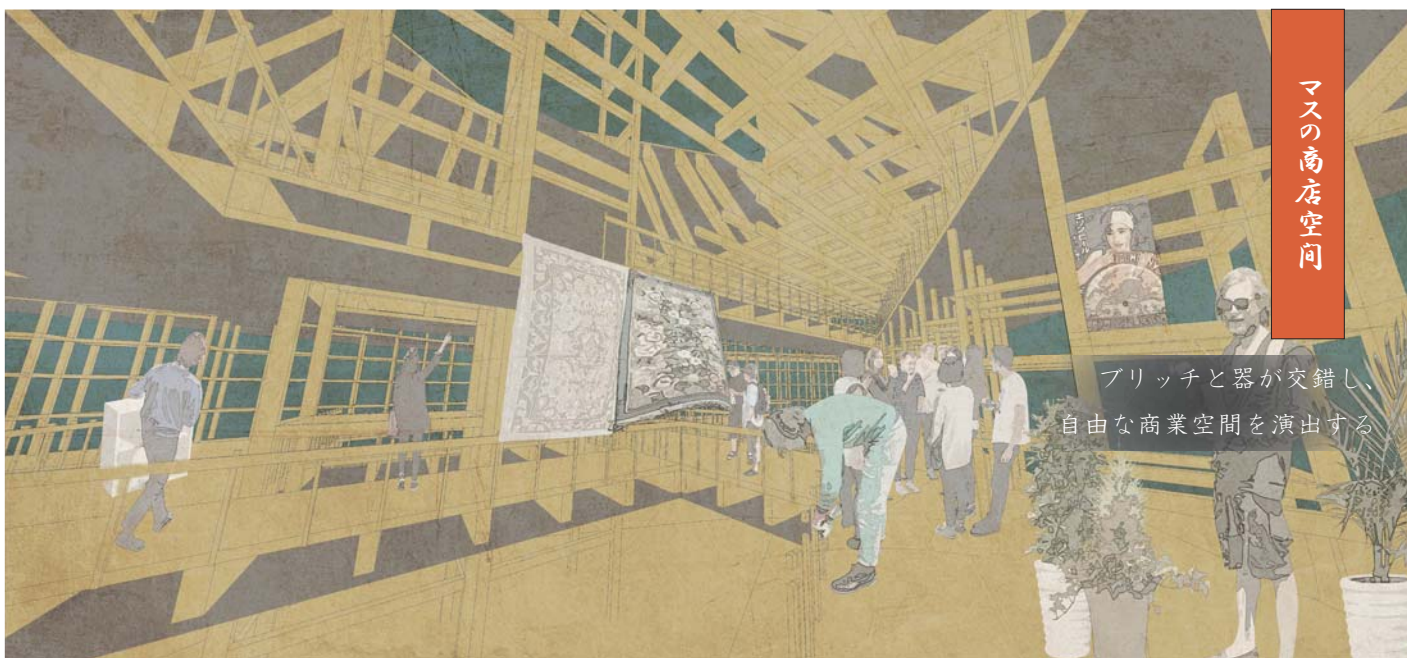


■敷地を越えた貸し借りを許容する断面構成

断面図



隣接する商店や外見活動を共有し合うことでまちの魅力を増幅する



ブリッチと器が交錯し自由な商業空間を演出する



古に根付く文化に触れることができ